学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	鄭　月子 【比較社会文化学専攻　平成21年度生】	本論文は、魏・阮籍の「詠懐」と題される詩群について論じたものである。全体は大きく二部に分かれ、Ⅰでは、阮籍詩の特異な時間認識と空間把握に着目して分析し、Ⅱでは、「詠懐」詩の受容の特色について論じる。 まずⅠでは、過ぎゆく時間の流れの一瞬一瞬に目をとめているかのような「詠懐」詩の表現の分析を通じて、そこに、過去から未来へと続くものとしてではなく、いつ途絶えるやも知れぬ不安定なものとして時間を受け止め、不確かな生を生きる主人公像が浮かび上がること、またこの主人公が身を置く世界は、徹底的な嫌悪の対象として、つねにそこからの逃避を意識する空間として形象化されていることを述べる。 またⅡでは、「詠懐」詩が阮籍その人によって名付けられたものではなく、読者たちによって与えられた名であること。何かを誰かに伝えるという発信・伝達が目的ではなく、思いを吐き出すという、その行為じたいが目的であったかのように見受けられる阮籍詩の表現のあり方が、「詠懐」ということばと重なることを指摘し、阮籍詩が「詠懐」と呼ばれ、その詩題が定着した背景を論じる。また後世の江淹と庾信の「詠懐」詩に対する摸擬作が、それぞれ「詠懐」詩と表面的な相違点を持ちながらも、作者の胸懐を吐露表出するという点で阮籍「詠懐」詩のあり方に通じていること、またそこにこそ江淹・庾信の「模擬」という営みの本質があると指摘する。 第一回審査会においては、先行研究の内容を咀嚼したうえで本論文の意義を明示すること、序における問題の設定と結における結論の提示を呼応させることなどのほか、用字や論述の表現などについての改正の要求がなされた。第二回審査会においては、改正がおおむね適切に行われたことを確認した。公開発表会においては活発な質疑が行われ、申請者は真摯に回答した。最終審査会においては、公開発表会の内容および質疑が評価された。以上を踏まえ、博士（人文科学）Ph.D.in Chinese Literature を授与するに相応しいものと判断した。
論 文 題 目	文学史上における阮籍「詠懐詩」の位置	
審 査 委 員	（主査）　教授　和田　英信	
	教授　宮尾　正樹	
	教授　浅田　徹	
	教授　伊藤　美重子	
	准教授　伊藤　さとみ	
インターネット公表	○　学位論文の全文公表の可否（　可　・　㊟　） ○　「否」の場合の理由 ア．当該論文に立体形状による表現を含む イ．著作権や個人情報に係る制約がある ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている ㊟．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ．特許の申請がある、もしくは予定されている ※　本学学位規則第２４条第４項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	